様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ５ 月 １８ 日現在

機関番号：１４５０１
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2010～2014
課題番号：２２３００２３０

研究課題名（和文）ライフスキル形成を基礎とする中学生用性教育プログラムの有効性に関する縦断研究

研究課題名（英文）Longitudinal Study on the Effectiveness of Life Skills-based Sex Education Program for Japanese Junior High School Students

研究代表者
川畑　徹朗（Kawabata, Tetsuro）

神戸大学・人間発達環境学研究科・教授

研究者番号：５０１３４４１６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,900,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は，国内外の研究によって青少年の様々な危険行動と密接な関係があることが明らかになっているライフスキルを形成することに焦点を当てた中学生用性教育プログラムを開発し，介入研究を行いその有効性を検討することであった．形成的評価と結果評価によって本プログラムの有効性が示された．本プログラムは，介入校における実践を踏まえて修正され，2014年に刊行された．現在は，その普及のためのワークショップを全国各地で開催している．

研究成果の概要（英文）：The objectives of this study were to develop a sex education program for Japanese junior high school students focusing on the development of life skills which are shown to be related to a variety of risk behaviors among adolescents by many studies conducted in Japan and other countries and to examine the effectiveness of the program by an intervention study. The results of process evaluation and outcome evaluation revealed the effectiveness of the program. The program was revised based on the results of the intervention and published in 2014. The workshops for distributing the program are held nationwide.

研究分野：総合領域

キーワード：性行動　ライフスキル教育　中学生

１．研究開始当初の背景

早期の性行動は，若年妊娠や性感染症などの身体的健康問題を引き起こすとともに，精神的，社会的健康を損なう恐れが高い危険行動である．しかし，我が国青少年の性行動に関する幾つかの大規模調査によれば，青少年の性行動は 1990 年代以降急速に活発化，早期化してきており，特に高校生女子においてその傾向が顕著である．そのため，性行動が活発化する前の中学生を対象として，妥当な行動変容理論に基づいた，学校現場で実行可能な性教育プログラムの開発が求められていた．

そこで研究代表者らは，平成 17～19 年度文部科学省科学研究費萌芽研究「ライフスキル形成を基礎とする性にかかわる危険行動防止プログラムの開発」（研究代表者川畑徹朗）の補助を受けて，青少年の性行動の関連要因，諸外国の性教育プログラムの内容について資料を収集，検討し，セルフエスティーム，意志決定スキル，対人関係スキルなどのライフスキルを育てる性教育プログラムの有効性を確認した．また，西オーストラリア州健康局が開発した，ライフスキル形成を基礎とする性教育プログラムを参考に，我が国で実行可能な中学生用性教育プログラムを提案した．

２．研究の目的

ライフスキル形成を基礎とする中学生用性教育プログラムを開発し，介入研究によってその有効性を確認することを目的とした．

３．研究の方法

（１）対象：

①質問紙調査実施対象者：埼玉県川口市及び新潟県村上市の中学校各１校の全校生徒 909 人（2011 年 5 月実施）．

②プログラム実施対象：埼玉県川口市の某中学校に 2011 年に入学した生徒 213 人．

（２）使用したプログラム：

本研究においては，ライフスキル教育を専門とする研究者と，学校現場で長年にわたってライフスキル教育や生徒指導に携わってきた校長，教育委員会指導主事，教諭，養護教諭などの実践者から構成される研究プロジェクトを組織し，プログラムの開発作業を進めた．表１に全体の内容構成を，表２～４に各学年の授業概要を示した．

表１　JKYB性教育プログラム「思春期の心と体」中学生用の内容構成

内容	１年	２年	３年
心身の発達	１．中学生の心と体の健康に関する生徒のニーズ調査 ２．思春期の体の変化 ３．思春期の心の変化	１．中学生の心と体の健康に関する生徒のニーズ調査 ２．仲間の影響	１．中学生の心と体の健康に関する生徒のニーズ調査
病気の予防			４．性感染症の予防
個人的スキル	４．思春期の心と体に関する情報源 ５．私の成長と家族 ６．ストレスへの対処 ８．友人関係に伴うトラブルの解決	５．男女の人間関係 ６．性に関する情報源	３．性にかかわる危険行動を避ける ５．自分の未来を考える
社会的スキル	７．より良い人間関係を築く	３．危険行動を避ける ４．誘いを断る	２．お互いを高め合う男女交際

表２　JKYB性教育プログラム「思春期の心と体」中学校１年生用の授業概要

	授業名	授業目標	関連するライフスキル
第１時	中学生の心と体の健康に関する生徒のニーズ調査	・中学生の心と体について知っていることを挙げる。 ・中学生の心と体の健康に関して学びたい内容を明らかにする。	
第２時	思春期の体の変化	・思春期の体の変化について知っていることを確認する。 ・思春期の体の変化に関する知識や関心には、個人差や性差があることに気付く。	
第３時	思春期の心の変化	・思春期を迎えて、心が変化してきていることに気付く。 ・思春期の心の特徴を受け止め、前向きに生きるための方法について考えを述べる。	・ストレス対処スキル
第４時	思春期の心と体に関する情報源	・心と体に関する様々な情報源のメリットとデメリットに気付き、有効な活用法について話し合う。	・意志決定スキル ・メディアリテラシー
第５時	私の成長と家族	・自分の成長を支える家族の愛情に気付く。 ・自分や家族を尊重していこうとする気持ちをもつ。	・セルフエスティーム形成スキル
第６時	ストレスへの対処	・人によってストレスの原因や感じ方には違いがあることに気付く。 ・ストレスへの様々な対処法を挙げる。 ・ストレスを上手に乗り越えるための、自分なりの対処法を見つける。	・ストレス対処スキル
第７時	より良い人間関係を築く	・人間関係を改善するためには、自己主張的コミュニケーションスキルが有用であることに気付く。	・社会的スキル
第８時	友人関係に伴うトラブルの解決	・意志決定の基本ステップを知る。 ・友人関係に伴うトラブルの場面において、意志決定スキルを適用する。	・意志決定スキル ・社会的スキル

表３　JKYB性教育プログラム「思春期の心と体」中学校２年生用の授業概要

	授業名	授業目標	関連するライフスキル
第１時	中学生の心と体の健康に関する生徒のニーズ調査	・１年時に学習した内容を想起する。 ・中学生の心と体の健康に関することで、２年時にはさらに、どのようなことを学習したいのか明らかにする。	
第２時	仲間の影響	・仲間が、自分の考えや行動に影響を及ぼしていることに気付く。	
第３時	危険行動を避ける	・仲間からの影響を受けて、危険行動が起こることに気付く。 ・様々な危険行動を避けるためには、自己主張的コミュニケションスキルを身に付けることが大切であることを確認する。	・社会的スキル
第４時	誘いを断る	・自己主張的コミュニケーションスキルの要素について確認する。 ・誘いを断るロールプレイングを通して、自己主張的コミュニケーションスキルを練習する。	・社会的スキル
第５時	男女の人間関係	・意志決定の基本ステップを確認する。 ・男女の人間関係にかかわる状況において、意志決定スキルを適用する。	・意志決定スキル
第６時	性に関する情報源	・性に関する様々な情報源の信頼度を評価する。	・意志決定スキル ・メディアリテラシー

表４　JKYB性教育プログラム「思春期の心と体」中学校３年生用の授業概要

	授業名	授業目標	関連するライフスキル
第１時	中学生の心と体の健康に関する生徒のニーズ調査	・１、２年時に学習した内容を想起する。 ・中学生の心と体の健康に関することで、３年時にはさらに、どのようなことを学習したいのか明らかにする。	
第２時	お互いを高め合う男女交際	・性的接触によって起こる様々な影響に気付く。 ・性的接触を伴わない、お互いを高め合う男女交際の在り方について考える。	・社会的スキル
第３時	性にかかわる危険行動を避ける	・危険行動に伴う様々な影響を挙げる。 ・危険行動を避けるためには、意志決定スキルが有用であることを確認する。	・意志決定スキル
第４時	性感染症の予防	・若い世代の性感染症が多い理由について話し合う。 ・性感染症を避けるための方法について話し合う。 ・性的接触を避けることが、中学生にとって最も望ましい予防法であることに気付く	・社会的スキル
第５時	自分の未来を考える	・自分の目標を達成するために、短期的な目標を設定する。 ・目標の達成を妨げる様々な危険行動に気付く。	・目標設定スキル

（３）プログラムの有効性の評価：

①質問紙調査：

2011 年 5 月に，埼玉県川口市（A 校）及び新潟県村上市（B 校）の各１校の全生徒 909 人を対象として，無記名の自記入式質問紙調

査（事前調査）を実施した．主な質問項目は，セルフエスティーム，社会的スキル，ストレス対処スキル，意志決定スキル，月喫煙，月飲酒，生涯キス経験，生涯性交経験，メディアリテラシー，性に関する心理社会的変数であった．また，2012 年～2014 年にかけて，毎年３月に，同一の調査票を用いて両校において事後調査を実施した．

②プログラム実施：

事前調査後，埼玉県川口市の介入校の生徒に対しては，開発した性教育プログラムを実施した．プログラムは，各クラスの担任が実施し，毎回の授業後には，生徒には「振り返りシート」を，実施者には「授業者による授業評価表」に記入してもらった．また，毎回の授業はビデオ撮影によって記録を残し，プログラム改訂会議の際には，研究班メンバー全員で視聴し，改善点について議論を行った．

一方，新潟県村上市の中学校においては，JKYB ライフスキル教育研究会が開発したライフスキル教育プログラムを３年間にわたって実施した．

４．研究成果

（１）性にかかわる危険行動の実態とその関連要因

本研究においては，中学生の性にかかわる危険行動の実態とその関連要因を確認するために，2011 年５月に中学校２校の全生徒を対象として質問紙調査を実施した．以下に，本研究の主な結果を示す．

①性にかかわる危険行動の実態

図１は，キス経験の割合を，図２には，性交経験の割合を学校別，学年別，性別に示した．キス経験については，B 中男子において有意な学年差が認められ，学年が進むにつれて経験者率が高くなる傾向にあった．また，3 年生男子において有意な学校差が認められ，B 中の割合が高かった．性交経験については，経験者率は男女ともに学年が進むにつれて高くなる傾向にあったが，有意ではなかった．学校差は，学年，男女の別を問わず認められなかった．

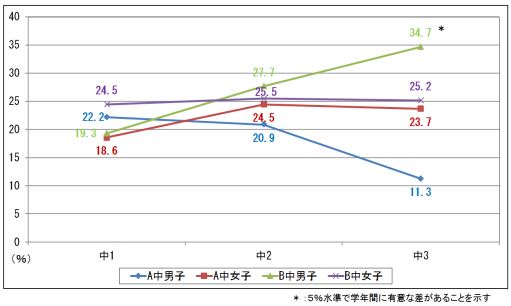


図１　学校別，学年別，性別にみたキス経験者の割合

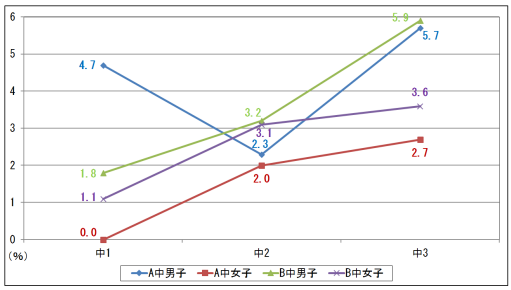


図２　学校別，学年別，性別にみた性交経験者の割合

図３には，キス経験別にみた性交経験者の割合を示した．本研究においては，性交経験率が低かったため，性交経験と密接な関連が認められたキス経験を性行動の指標として用いることとした．

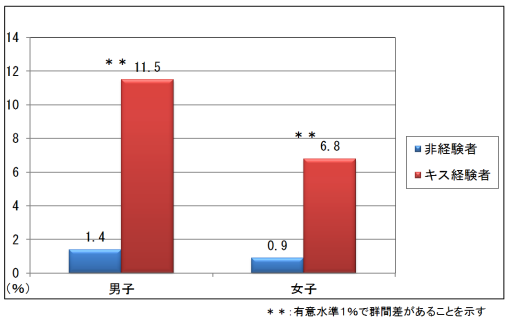


図３　キス経験別にみた性交経験者の割合

②セルフエスティーム及びライフスキル

表５には，生涯キス経験とセルフエスティーム及びライフスキルとの関係に関して，有意差が認められた変数を示した．

セルフエスティームに関しては，「家族」において男女ともに２群間に有意な差があり，いずれの場合も非経験者群のセルフエスティームの得点が高かった．

社会的スキルに関しては，男子の「向社会的スキル」において２群間に有意な差があり，

生涯キス経験者群の得点が高かった．

ストレス対処スキルに関しては，女子の「情動的回避」において２群間に有意な差があり，生涯キス経験者群の得点が高かった．

表５　生涯キス経験別にみたセルフエスティーム及びライフスキルの得点

	男子		女子	
	非経験者	キス経験者	非経験者	キス経験者
〔セルフエスティーム〕				
家　　族	*23.1±4.0 (n=338)	22.1±3.8 (n=111)	*23.1±4.4 (n=317)	22.0±4.5 (n=105)
〔社会的スキル〕				
向社会的スキル	20.6±3.4 (n=344)	**21.6±3.3 (n=111)	22.8±2.7 (n=321)	23.0±2.6 (n=105)
〔ストレス対処スキル〕				
情動的回避	4.2±1.6 (n=348)	4.1±1.7 (n=112)	5.2±1.7 (n=325)	*5.6±1.7 (n=105)

注１：＊，＊＊は，それぞれt検定によって有意水準５%，１%で有意に得点の高い群を示す
注２：表中の数字は，平均値±標準偏差（n＝標本数）

③性に関する心理社会的変数

表６には，生涯キス経験と性に関する自己効力感及び行動意図の関係に関して，有意差が認められた変数を示した．性に関する自己効力感については，女子において，生涯キス経験者は非経験者に比べて，性的圧力を避ける自己効力感の得点が有意に低かった．性に関する行動意図に関しては，男女ともに２群間に有意な差があり，生涯キス経験者群における性に関する行動意図の得点が高く，10代のうちの性交に対する行動意図が強い傾向にあった．

表６　生涯キス経験別にみた性に関する自己効力感及び行動意図の得点

	男子		女子	
	非経験者	キス経験者	非経験者	キス経験者
【自己効力感】				
性的圧力を避ける自己効力感	3.8±1.1 (n=344)	3.6±1.3 (n=113)	*4.0±1.0 (n=322)	3.7±1.1 (n=104)
【性に関する行動意図】				
10代の性交可能性に対する予測	2.1±1.1 (n=344)	**2.6±1.2 (n=113)	2.1±1.1 (n=322)	**2.9±1.3 (n=103)

注１：＊，＊＊は，それぞれt検定によって有意水準５%，１%で有意に得点の高い群を示す
注２：表中の数字は，平均値±標準偏差（n＝標本数）

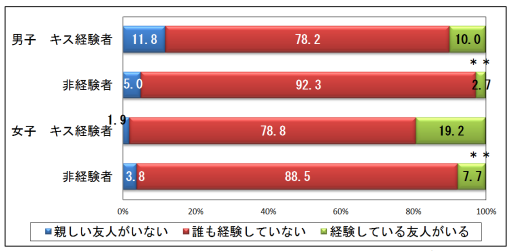
表７には，生涯キス経験と結婚前の性交に対する態度との関係に関する結果を示した．男子においてはすべての項目において，女子においては，「愛し合っている相手であれば，結婚前の性交をしても構わない」，「強く好意をもっている相手であれば，結婚前の性交をしてもかまわない」の２項目において，２群間に有意な差があり，生涯キス経験者は非経験者に比べて，結婚前の性交を肯定する傾向が強かった．

表７　生涯キス経験別にみた結婚前の性交に対する態度

	男子		女子	
	非経験者	キス経験者	非経験者	キス経験者
愛し合っている相手であれば かまわない	3.3±1.7 (n=339)	**4.1±1.7 (n=113)	3.6±1.6 (n=316)	**4.3±1.5 (n=104)
強く好意をもっている相手で あればかまわない	3.0±1.6 (n=338)	**3.7±1.8 (n=112)	3.1±1.5 (n=317)	**3.7±1.6 (n=104)
少し好意をもっている相手で あればかまわない	2.4±1.4 (n=338)	**2.9±1.6 (n=112)	2.0±1.2 (n=317)	2.3±1.3 (n=103)
それほど好きでなくても かまわない	1.8±1.1 (n=337)	**2.3±1.6 (n=112)	1.5±0.9 (n=317)	1.6±0.8 (n=104)

注１：＊，＊＊は，それぞれt検定によって有意水準５%，１%で有意に得点の高い群を示す
注２：表中の数字は，平均値±標準偏差（n＝標本数）

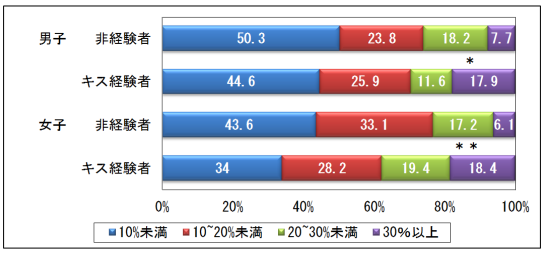
図４には，生涯キス経験別にみた性交を経験している友だちがいると認知する者の割合を示した．男女ともに２群間に有意差があり，生涯キス経験者群の方が性交を経験している友だちがいると認知する者の割合が高かった．



＊＊：有意水準1%で群間差があることを示す

図４　キス経験別にみた性交を経験している友だちがいると認知している割合

図５には，生涯キス経験別にみた同年代の性交経験率の予測を示した．男女ともに２群間に有意差があり，同年代の性交経験率を10%未満であると予測した者の割合については非経験者群が高い一方，30%以上であると予測した者の割合については，生涯キス経験者群の方が高かった．



＊＊：有意水準1%で群間差があることを示す　＊：有意水準5%で群間差があることを示す

図５　キス経験別にみた同年代の性交経験率の予測

（２）プログラムの有効性の評価

①プログラムの形成的評価

授業者による授業評価は，授業を実施した学級担任６人が，すべての授業について，評価表の項目に従って毎時の授業終了後に記入した．表８には，「授業者による授業評価表」の主な質問内容を示した．

表８　授業者による授業評価表質問内容

1）授業全体に対する評価
・所要時間　・予定した内容や学習活動の終了度　・内容のつながりや流れ
・生徒の興味・関心　・生徒の参加態度　・生徒にとっての学習内容や活動のレベル
・教師にとっての準備の負担や時間　・総合評定　・家庭や地域との連携活動

2）個別の学習内容や活動に対する評価
・学習の意義　・生徒の参加意欲

3）自由記述による意見
・特に良かった学習内容，活動，教材等　・特に改善すべき学習内容，活動，教材等
・家庭や地域との連携活動　・その他意見，要望

表９－１，２には，中学校１年生用プログラム実施後の授業者による授業評価表の集計結果を示した．

計画された授業内容を終了できたクラスが最も少なかったのは第４時「思春期の心と体に関する情報源」であった．また，全体のつながりや授業の流れ，生徒の興味・関心，生徒の参加態度については，すべての授業において 60%以上の授業者が肯定的な評価をしており，総合評定においては 90%以上の授業者が「とても良い」または「良い」という評価を示した．次に，準備の負担や時間については，第３時「思春期の心の変化」を除くすべての授業について 60%以上の授業者が「少ない」または「普通である」と評価した．最後に，家庭や地域との連携活動については，保護者アンケートを用いた第１時「中学生の心と体の健康に関する生徒のニーズ調査」において 90%以上の授業者が「はい」と答えていたものの，第４時「思春期の心と体に関する情報源」と第８時「友人関係に伴うトラブルの解決」において「はい」と評価した授業者が最も少なく 30%以下であった．

表９－１　授業者による授業評価結果（１年生プログラム）―授業全体に対する評価―

授業テーマ	所要時間：「50分」	終了できたか：「はい」	全体のつながり授業の流れ：「とても良い」または「良い」	生徒の興味関心：「とても高い」または「高い」	生徒の参加態度：「とても良い」または「良い」
1. 中学生の心と体の健康に関する生徒のニーズ調査	＊＊＊	＊＊＊	＊＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊
2. 思春期の体の変化	＊＊＊	＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊＊
3. 思春期の心の変化	＊＊＊	＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊	＊＊＊＊
4. 思春期の心と体に関する情報源	＊＊＊＊	＊	＊＊＊	＊＊＊	＊＊＊
5. 私の成長と家族	＊＊＊	＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊＊
6. ストレスへの対処	＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊＊
7. より良い人間関係を築く	＊＊＊＊	＊＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊＊
8. 友人関係に伴うトラブルの解決	＊＊＊	＊＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊＊

＊の数は，該当するクラス数×100%を，下記の要領で示す．
0%≦＊≦30%　30%≦＊＊≦60%　60%≦＊＊＊≦90%　90%≦＊＊＊＊≦100%　たとえば，回答クラス6クラスのうち，予定した学習内容や学習内容について全て指導できたクラスが1クラスの場合，1/6×100＝16.67(%)であり，「＊」となる．

表９－２　授業者による授業評価結果（１年生プログラム）―授業全体に対する評価―

授業テーマ	生徒に対するレベル：「とても高い」または「高い」	準備の負担や時間：「少ない」または「普通である」	総合評定：「とても良い」または「良い」	家庭，地域との連携活動：「はい」
1. 中学生の心と体の健康に関する生徒のニーズ調査	＊＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊＊
2. 思春期の体の変化	＊＊＊＊	＊＊＊	＊＊＊＊	＊＊
3. 思春期の心の変化	＊＊＊	＊＊	＊＊＊＊	＊＊
4. 思春期の心と体に関する情報源	＊＊＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊＊	＊
5. 私の成長と家族	＊＊＊＊	＊＊＊	＊＊＊＊	＊＊
6. ストレスへの対処	＊＊＊＊	＊＊＊	＊＊＊＊	＊＊
7. より良い人間関係を築く	＊＊＊＊	＊＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊
8. 友人関係に伴うトラブルの解決	＊＊＊＊	＊＊＊	＊＊＊＊	＊

＊の数は，該当するクラス数×100%を，下記の要領で示す．
0%≦＊≦30%　30%≦＊＊≦60%　60%≦＊＊＊≦90%　90%≦＊＊＊＊≦100%　たとえば，回答クラス6クラスのうち，予定した学習内容や学習内容について全て指導できたクラスが1クラスの場合，1/6×100＝16.67(%)であり，「＊」となる．

（３）プログラムの結果評価

①セルフエスティーム

事後調査３（３年時）の結果によれば，「身体」に関するセルフエスティームにおいて２校間に有意な差が認められ，介入校女子の得点は比較校女子の得点に比べて高かった．

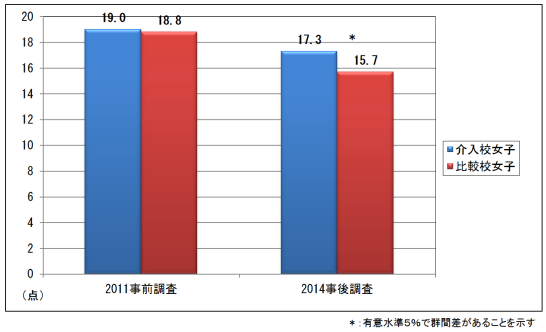


図６　「身体」に関するセルフエスティーム尺度の得点

②ストレス対処スキル

事後調査３の結果によれば，「認知的回避」に関して男子において２校間に有意な差が認められ，介入校男子の得点は比較校男子の得点に比べて高かった．

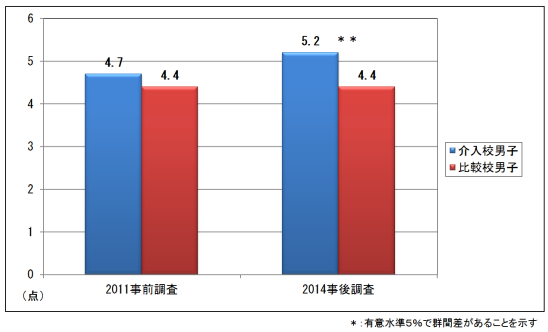


図７　「認知的回避」尺度の得点

③結婚前の性交に対する態度

事後調査３の結果によれば，男女ともに２校間に有意な差が認められ，介入校男女の得点は，比較校男女の得点に比べて低く，結婚前の性交に対して否定的な傾向にあった．

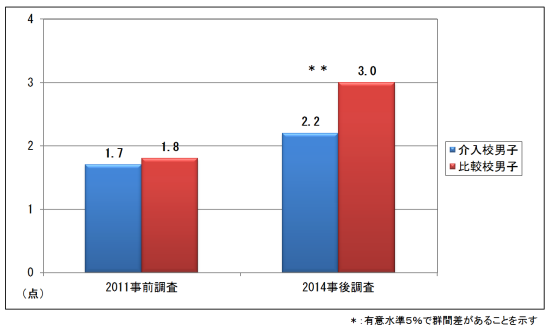


図８　結婚前の性交に対する態度の得点（男子）

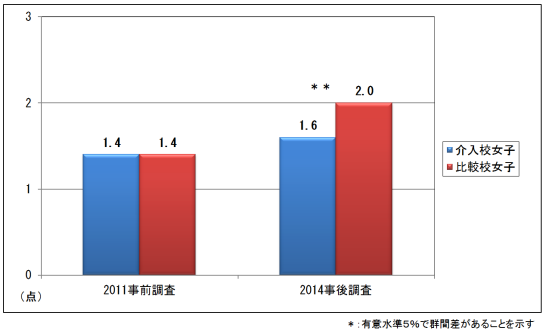


図９　結婚前の性交に対する態度の得点（女子）

（４）プログラム普及の取組

開発したプログラムを普及するために学校現場の教師を対象としたワークショップを全国各地で開催している．

以下，平成 26 年度に実施したワークショップの概要について述べる．

まず，本プログラムの基本原理や行動変容につながる理論の基礎について，調査データやモデル図等を用いて説明した．次に，プログラムの内容について参加者に体験学習をしてもらった後，学校現場においてより円滑に学習活動を展開するための意見交流を行った．最後に，介入校での実践記録を視聴するとともに，子どもたちが作成したワークシートや振り返りシートなどを紹介した．

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計６件）

① 宋　昇勲、川畑　徹朗、李　美錦、菱田　一哉、堺　千紘、辻本　悟史、中村　晴信、今出友紀子、インターネット上の性情報への接触が中学生の性行動に及ぼす影響に関する縦断研究、学校保健研究、査読有、55、2013、197-206

② 宋　昇勲、川畑　徹朗、今出友紀子、辻本　悟史、中村　晴信、菱田　一哉、李　美錦、堺　千紘、中学生の性行動とその関連要因に関する縦断研究-心理社会的要因に焦点を当てて-、学校保健研究、査読有、54、2012、27-36

③ 李　美錦、川畑　徹朗、宋　昇勲、菱田　一哉、堺　千紘、辻本　悟史、中村　晴信、今出友紀子、中国における青少年の性行動の関連要因と教育的アプローチ、学校保健研究、査読有、54、2012、48-61

④ 宋　昇勲、川畑　徹朗、今出友紀子、李　美錦、菱田　一哉、堺　千紘、辻本　悟史、中村　晴信、陳　曦、インターネット上の性情報への接触が青少年の性行動に及ぼす影響に関する予備的研究、学校保健研究、査読有、54、2012、152-161

⑤ 李　美錦、川畑　徹朗、菱田　一哉、今出友紀子、宋　昇勲、堺　千紘、中村　晴信、辻本　悟史、中学生の性行動と心理社会的変数との関連、学校保健研究、査読有、54、2012、418-429

⑥ 宋　昇勲、川畑　徹朗、菱田　一哉、今出友紀子、中村　晴信、辻本　悟史、李　美錦、堺　千紘、菅野　瑶、三島　枝里子、インターネット上の性に関する情報への接触と中学生の性に対する態度及び行動との関係、学校保健研究、査読有、53、2011、288-298

〔学会発表〕（計３件）

① 宋　昇勲、川畑　徹朗、李　美錦、菱田　一哉、堺　千紘、辻本　悟史、中村　晴信、今出友紀子、インターネット上の性情報への接触が中学生の性行動に及ぼす影響に関する縦断研究、第 61 回日本学校保健学会、2014.11.15、石川県文教会館（石川県）

② 李　美錦、川畑　徹朗、菱田　一哉、今出友紀子、堺　千紘、中村　晴信、中学生の性行動と心理社会的変数との関連、第 60 回日本学校保健学会、2013.11.16、聖心女子大学（東京都）

③ 李　美錦、川畑　徹朗、菱田　一哉、今出友紀子、堺　千紘、中村　晴信、縦断研究に基づいた中学生の性行動と心理社会的変数との関連、第 60 回日本学校保健学会、2013.11.17、聖心女子大学（東京都）

〔図書〕（計１件）

① 川畑　徹朗　他、東京法令、ライフスキルを育む「思春期の心と体」授業事例集、2014、274

６．研究組織

(1)研究代表者

川畑　徹朗（KAWABATA, Tetsuro）
神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・教授
研究者番号：５０１３４４１６

(2)研究分担者

中村　晴信（NAKAMURA, Harunobu）
神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・教授
研究者番号：１０３２２１４０